

西日本日独協会特別企画のご案内

会員による会員のためのオンライン講義：映像の中の「ドイツ」

特別企画第4弾のご案内です。第1弾の「チーム〈ドイツ〉の最前線」、第2弾の「近現代ドイツにおける〈女性〉」、第3弾の「近代ドイツの〈folk〉」に引き続き、今回は映像の中で示されるドイツ語圏の文化や文学について、福岡大学の富重純子先生と堺雅志先生の協力を得て、お話ししたいと思います。部分参加でも構いません。皆さまからの多数のお申し込みを、心よりお待ちしております。

企画委員長 小黒康正

参加資格：西日本日独協会会員、ドイツ語講座受講者、招待者の皆さま

申込先：協会事務局 (info@jdg-nishinihon.org) にメールにてお申し込みください。

申込締切日：9月30日(木)

視聴先：[Zoom を用いて行いますので](#)、申込者に URL とパスワードをお伝えします。

プログラム：

■ 第9回講義 10月9日(土) 17時から18時まで

富重純子(福岡大学)：グリムのメルヒェンにもとづく二、三の映画について

スペイン映画『ブランカニエベス』(白雪姫)(2012年)とフランスのアニメーション映画『大人のためのグリム童話 手をなくした少女』(2016年)は、グリムのメルヒェンを題材としながら、その物語およびうつくしい映像の双方で私たちを驚かせます。今後現れるべき、新しいグリムの映画についても考えてみたいと思います。

■ 第10回講義 10月23日(土) 17時から18時まで

小黒康正(九州大学)：平野啓一郎『マチネの終わりに』における「ドイツ」

映画『マチネの終わりに』(2019年)をご覧になられたでしょうか。この映画は「ロマンス」として扱われていますが、2015年の原作は、ドイツの文学が大きな役割を果たす新しい芸術家小説です。映画は映画なりの良さがありますが、原作はさまざまな歴史的な破局に基づきながらも、否、基づくからこそ、私たちに希望の光を与えてくれます。

■ 第11回講義 11月6日(土) 17時から18時まで

堺雅志(福岡大学)：カカーニエン・キッシュ ―映画に描かれるオーストリア像―

『シシー』三部作、『菩提樹』、『第三の男』という第二次世界大戦後まもなく撮影された映画を取り上げます。映画によって作られたオーストリアのキッシュな(俗っぽい)姿に光を当てながら、「カカーニエン」と揶揄されたオーストリア・ハンガリー二重帝国がじっさいどのように崩れていったのかを辿ってみたいと思います。

..... 返信用フォーマット

西日本日独協会事務局 御中

西日本日独協会特別企画を申し込みます。

参加資格：西日本日独協会会員、ドイツ語講座受講者、招待者

ご芳名：